

子どもたち一人一人の学力を高める研究

—学びの意欲を高める指導の工夫—

I 研究の内容

1 研究仮説

算数科と図画工作科において、主体的な学びを育む授業展開を行えば、子どもたちの学びの意欲が向上するであろう。

2 研究の内容

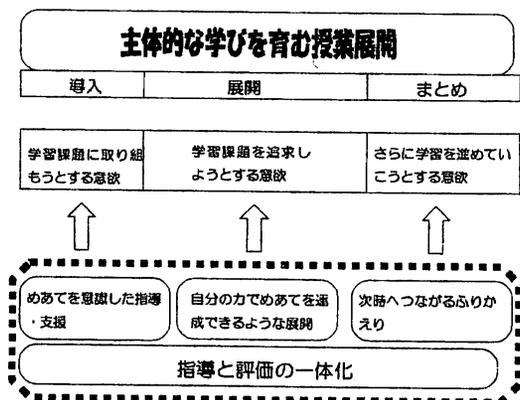
主体的な学びを育む授業展開を工夫する。

1 単位時間の授業を考えると、学びの意欲には、学習課題に積極的に取り組もうとする導入部分での意欲、学習課題を積極的に追求しようという展開部分での意欲、そして、次回の授業でさらに学習を進めていこうとするまとめ部分での意欲があると考える。

それぞれの学びの意欲に対して、教員の適切な指導で子どもの主体的な学びが育まれ学びの意欲がそれと相まって高まっていくであろうと考える。(図1参照)

そこで、今年度は算数科と図画工作科において以下の内容で研究を進めてきた。

(図1)



(ウ) 場の設定や準備の工夫

(2) 学びの意欲を高める学習指導の工夫

ア めあてを意識した指導・支援
○めあての共有化

イ **算数科** 自分の力でめあてを達成できるような展開

図画工作 自分の力を存分に発揮できるような展開

ウ 次時へつながるふりかえり

(1) 主体的な学びが進められる学習過程の工夫

算数科

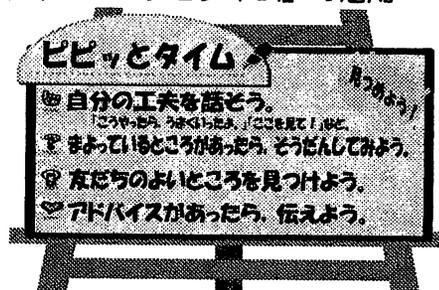
(ア) 問題解決的な学習の導入

(イ) 評価計画に基づく適切な評価

図画工作

(ア) 評価規準の作成と指導と評価の計画

(イ) 「ピピッとタイム」の活用



○ふりかえりカードの活用

(3) 指導と評価の一体化

指導と評価の積み重ね・即時評価の重要視

教員の言葉掛け

II 成果と課題

○算数科での問題解決的な学習、図画工作科での場の設定や準備の工夫などといった各教科の特性を考慮した学習過程の工夫は、子どもが主体的な学びを身に付ける上で効果があると言える。

○評価計画に基づき適切な評価を心掛けてきた。おおむね満足できる状況に達しない子どもへの具体的な手だてを明らかにすることで、どの子どもも主体的な学びを進めることができた。評価する際に教員の見取りをいかに客観性をもってするか更に研究を深めていきたい。

○めあての共有化

授業の導入部分でめあてを明確に伝えたり、気付かせたり、ともに設定したりすることで、めあてを意識した子どもの活動や言動が見られるようになってきた。また、教員も常にめあてを意識して指導・支援できた。めあてを共有化することで、教員の指導や支援が子どもにとって受け入れやすいものとなった。その結果、学習活動が充実したものとなり、多くの子どもが達成感をもつことにつながった。

○言葉掛けの工夫

教員の言葉掛けは子どもの意欲を引き出す上で非常に重要ではあるが、子どもの様子をよく見極めて時を見計らうこと、どの子どもにも同じ頻度で接していくことが肝要である。

○自己をふりかえる活動の取り入れ

記述式のふりかえりカードを計画的継続的に使うことで、自己評価能力の高まりが見られるようになってきた。書く時間の確保が課題である。

○子ども同士のかかわりの重視

カードに記述された友だちに対する評価の交流や相互評価カードによる認め合い、小集団の話し合いなど子ども同士のかかわりの中での学び合いにより、学びの意欲がさらに高まっていくと考えられる。相互評価の交流の仕方、発達段階を考慮した子ども同士のかかわり方など、まだ確立していない部分も多いのでさらに研究を進めていく必要がある。

III 成果として

■算数科

- めざす子どもの姿
- スマイルノート
- 算数ひろば
- ふりかえりカード
- 言葉掛け集

■図画工作科

- めざす子どもの姿
- 図工の4つの力
- ピピッとタイム
- 学習カード
- 見取りと言葉掛けのポイント

詳しくは本校ホームページをご覧ください。 <http://www.kcnet.ne.jp/~matsusho/>
(研究主任 嵐本弥生)